

真白の箱庭



DOJIN
R18
成人向け





忙しいんだ



親父の…



俺は外科医で
あると同時に

時期院長候補
として
病院経営にも
携わっている



お前専門は
外科だったな



難しい
症例
だったな

手術も
何度か
必要だ

医療費も
馬鹿ならん
はずだが





膝をついて
拾え



クズなら
でも這い
蹲って

自分の価値を
証明して
見せろ



数年後

こんにちはー

が

助教授
知らない？



今度の手術の
合同症例検討会
なんだけど

さあ…

暮人教授の
とこじゃない？

あの人すぐ
いなくなるから



あの噂
本当かな

身体で
買ったって

暮人様
受けるかね

でも長いこと
空席だったん
だろ？
助教授の席



それを何の
後ろ楯もなく
暮人様だけで
推薦だけ

何でせー

あなたで
なにかの
助教授

第一外科
助教授
一瀬 グレン







これからも
力を合わせて
沢山の命を
救いましょう



チームとして
鼻が高いぜ

それだけと
腕がいたいと
ですからね！



元々そこは
空席だった

暮人の推薦で
すんなりと
それは決まった



…おう

急にその席のは
与えられたのは
暮人が俺の
腕を認め
父の手術が
2度ほど成功
した頃のこと



大病院の方、
それ外科の
助教授だ



よっグレン！
良かった
じゃーん



なんにせよ
親父が退院
してからだ

それまで
は……

分かってる
つて誰にも
言わない



腕さえあれば
放っておいても
知名度なんて
上がってくる

独立に一步
前進だ

馬鹿
もつと声
落とせよ



僕
固いし♡

ゆ



気に……



お前よっぽど
気に入られてるな



不安しか
感じねえよ

えー？

飯行こう
ぜー



まあでも
あれだよな

終幕人
第一外科
教授

及び時期
院長候補

病院経営の
ためなら
どんな悪ど
いことでも
やつてのける

冷酷な
若き外科の
支配者

親父には
会わせて
もらえない

手術の見学
にすら
立ち会わせて
もらえなかった

父の手術の様を
映像でだけ
見せてもらった
ことがある



「俺の腕なら
救ってやれる」



「そう言い
切れるだけ
ある」

「あいつなら
多分大丈夫」



「…いや
そもそも
あいつの
せいでは」

「とにかく」



「ちよつと
だけ
むかつく
けど」

「お前よっぽど
気に入られ
てるな」



「あの腕なら
親父は
助かるはず」

ここで俺が
腕を磨いて
また病院を
建て直せば

第一外科助教授は枕営業

妙な噂が
たち始めたの
はそれから
しばらくは
しづから
だった





私達は
気に
しません
から！

皆
インパクトの
ある話題に
飢えてる
からな

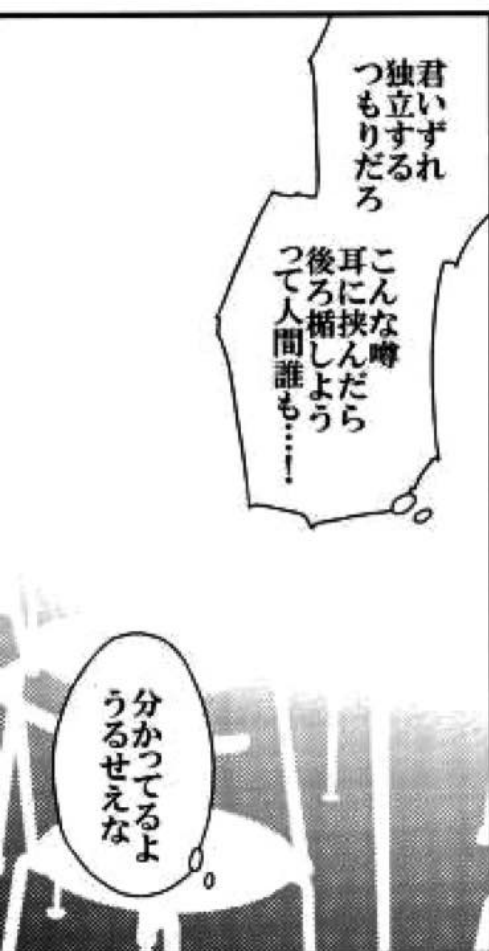


まあすぐ
飽きるって
お前だよ

別に
どうでも
いい



私たちの悪い
嫉妬です！



君いずれ
つもりだろ

こんな噂
耳に挟んだら
後ろ挿しよう
つて人間誰も……！

分かってるよ
うるせえな



良いや
ねえか

ちよつと
グレン



まずい
つて！



……だ、
そうだ
どうにか
ならないか

こんな
暮人兄さん
だにもマイナス
だろうし

たまたま、勝者に負けた

ふむ

実力で
どうにか
するさ

お前はよくても
俺は困るんだよ

院長になるのに
弊害になるの
ほどじゃないな



苛められて
落ち込むような
殊勝なメンタル
だったか？

将来的に
独立する
ときに……

違う



独立？

ふん……



それに一応
感謝も……

助教授の
肩書きで
しぼらく
知名度稼
ぎか



親父が無事
退院して

立て替えて
もらつてる
医療費を
返せるまでは
ここにいるよ



は……

お前はずっと
ここに
いるんだ

当然死ぬ
ときもこの
病院でな



少なくとも
俺が生きて
いる限りは
逃がさない



俺はそんな
つもりでお前
にあの席を
与えたわけじ
やないんだがな

あれだけでは
この場所には
縛り付けるに
足りなかつたか



お前に後ろ盾
するようなら
人間のなら

全員潰す



あのに
榎の
しな
てらに
や利な
る用が



困るん
だつたな

暮…



あの噂を
事実にして
やろう



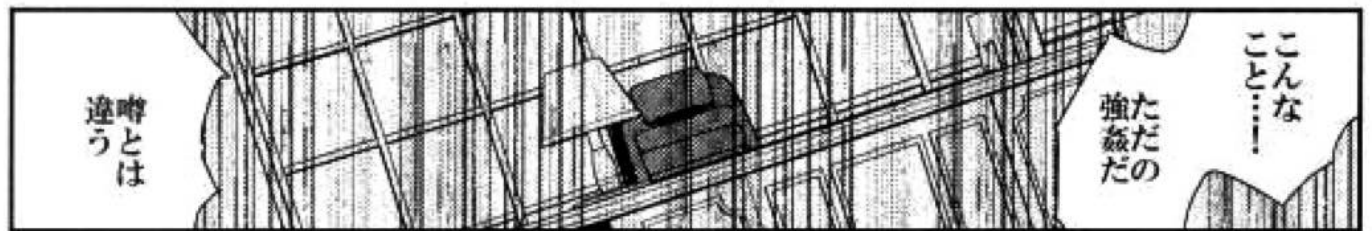


待て

俺のものに
なるなら



それでお前が
一生ここに
留まるなら



噂とは
違う

こんな
こと……！
ただの
強姦だ



合意の上
だろ？



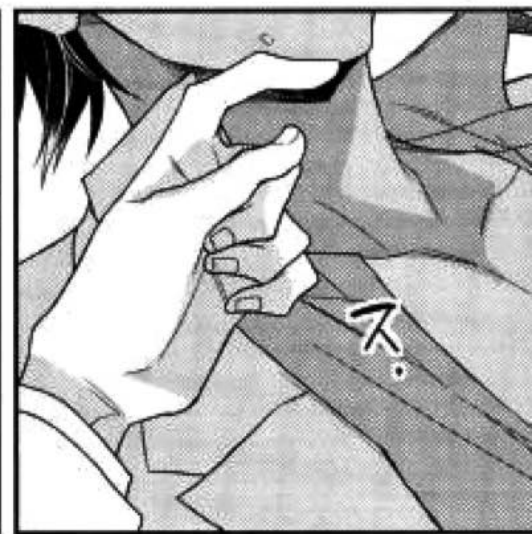
俺は……



お前の父親は
まだあと数回
手術が
必要だろ？



合意、
しろよ







ころして
やる……!



ころして
やる……



ったり、
前……

だ……
ん。



いつ出しても
思いの口から
医者の台詞は
出えんな

今でもそう
思っている
のか?



あ。



な構わないぞ

あ

ああ

ズンズン

ア



殺されてやっても

ほ

ア

ッ...!?



俺に何かあればお前が執刀するといいい

ミスしようが見殺そうが好きにしる

俺の身体

最期にの触れるのはお前だ

あ

ア

あ

ちん

ア

あ





お前は
俺の
ものだ



カンファ...

まあいいか
深夜が
何とかする



あ



それは俺が
医者である
ことが大前提だ



最期に
触れるのは

暮人は俺が
医師であること
自体をやめて
しまいかも
しれない

などとは

露ほどにも
考えていない
らしかつた

一瀬 栄



カキヤ.



珍しいな
自分から
ここへ
来るなんて



…お前でも
そんなこと
するんだな



クレン



俺も昔
よく親父に…

上手い
じゃないか



世の中には練習
などしなくとも
最初から上手く
やるからな
天才がいる



俺は別段
誉められた
覚えがな

出来るように
なつて当然だ



…?

おいしく
はないか



こうしている
間にも俺との
差は開いて
いくぞ



難度に
意味なんて
ない

必ず成功
するんだ



それより
親父の
最後の
手術

難しく
なるって

深夜か



…興味
ないね



俺だって
覚悟くらい、

必ずだ



そういう
発言
よくないぞ

必ずなんて
有り得ない



俺を誰だと思っっている



辞職なんてやめておけ

この俺がこんなに苦心しておくんなんて余程だぞ

くそ、こういう所は...

!



ここに
俺一人
充分だ
からな



気付いてー

今まで助教の
席が空いて
いたのは偶然
じゃないぞ

必要ない
からだ



他の誰か
を
欲しい
こと
など
ない



睨んだ
最初に
会ったとき



それに一瀬
栄の
最初の手術が
成功したときも



今までは







ス。

その目で
でちゃんと
俺のことを
見ている



以前も言ったが
恩義や感謝も
必要ない



好意を返す
必要はないし
それはい別に
どうでもいい



グレン、
お前だが
必要だ

傍に
いる



お前が常に
悔しいと思える程
圧倒的に努力する
よう努力する



お前が傍に
いると俺が
努力できる



それにお前の腕ならお前の父親の次くらいには買っているつもりだぞ

辞職なんてやめておけ

もつたない



じゃあな



何が親父の次にだか

大分じゃねえか

ズラッ

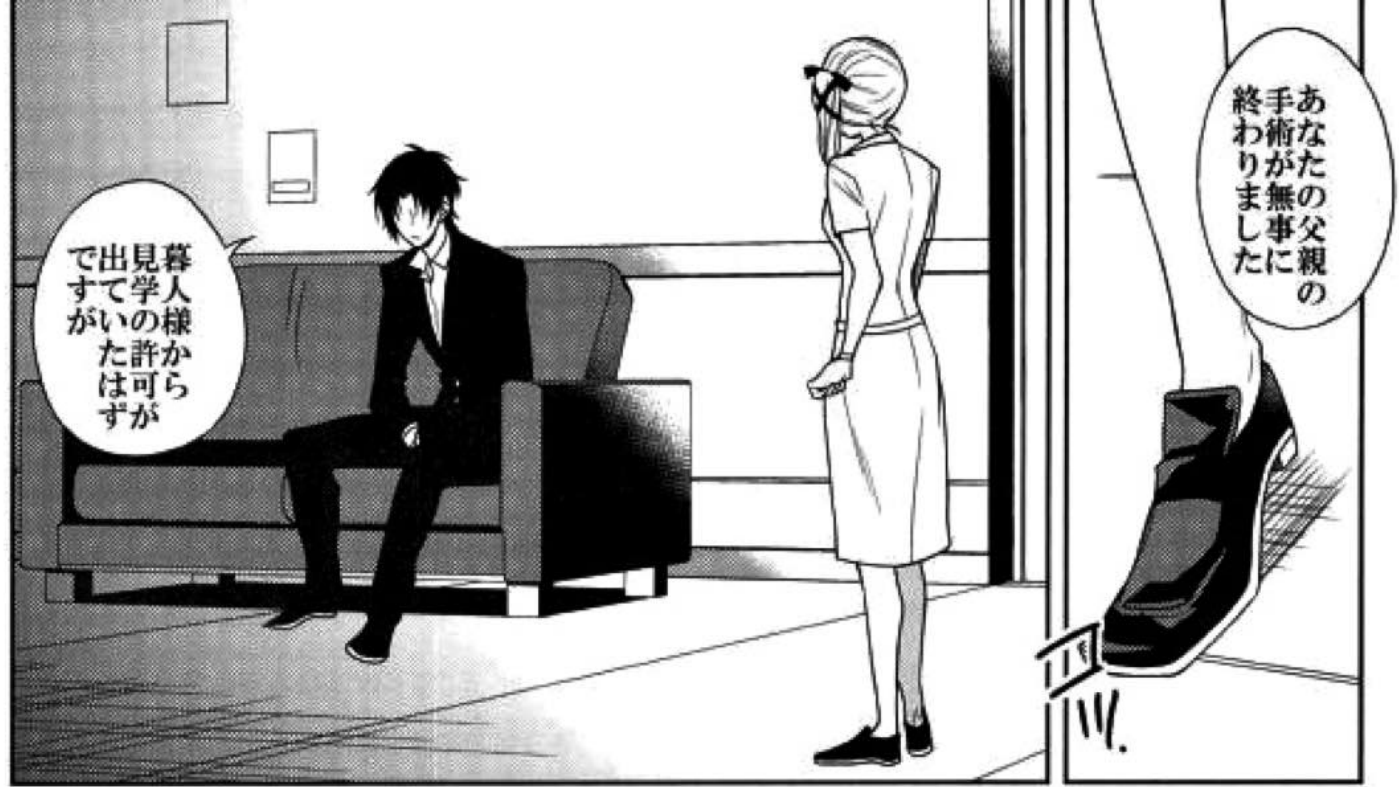


終幕人は優秀な医者だ

俺などより、ずっと

くそ

一瀬グレン



あなたの父親の
手術が無事に
終わりました

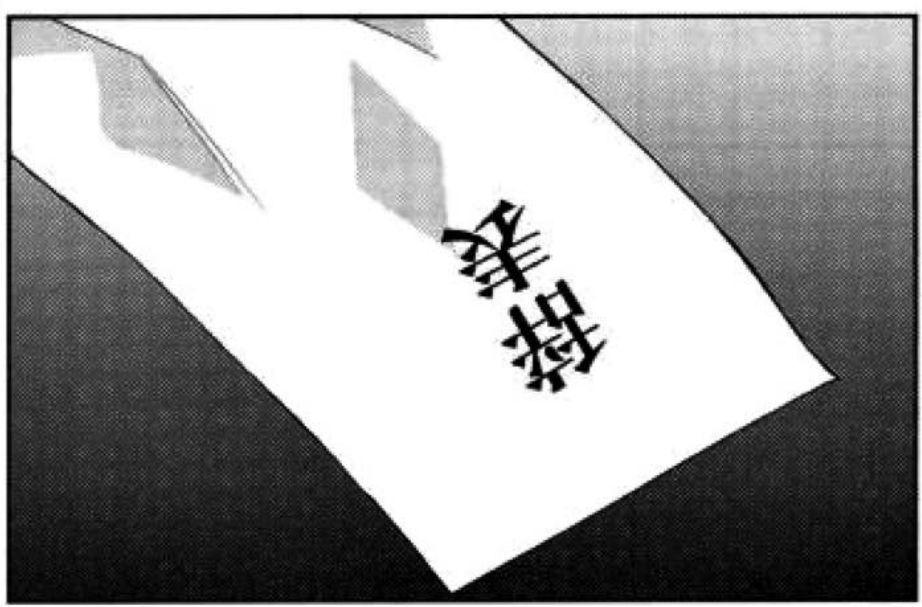
暮人様から
許さず
見学のた
出すが



暮人様に
直接どうぞ

また
上手いこと
嵌められさ
だから嫌だ

ではひとまず
預かます
おきます



あなたの父親を
心配せずと
手術室の前に



親戚には
いわずで
いいですか

あ？

うにち
親戚に
いなくて
いなくて

は？

誰だそれ



おい、

!?

キヤアア







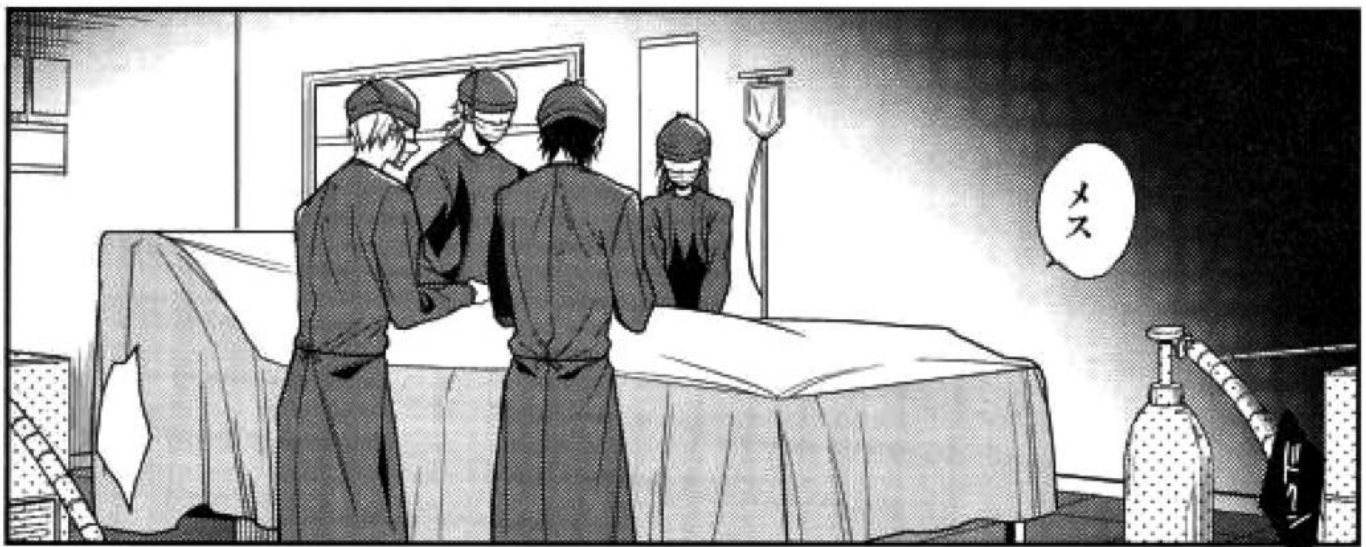
お前に
やるよ

俺の身体、最期に触れるのはお前だ



カッ
ラ
...







俺が何も
しなれば

終幕人は
ここで死ぬ

それだけで

こんなに
簡単に……!



それに……!



グレン、

さっきの
奴と同じだ



この男の
うちは
潰れた

……?

親父だつて
あんな苦勞
しなれば

発病せず
今も元気
だったかも
しれない



全部
この男に
奪われて



医者なども
やめたも
同然だ

やれ



やれ!

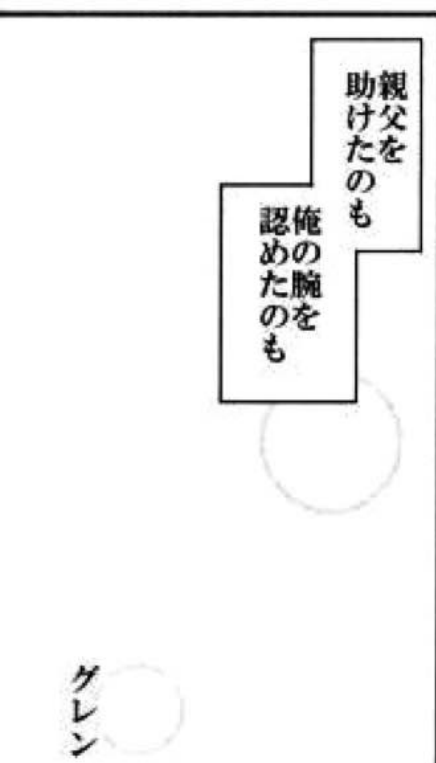
グレン!



今ここでこいつが
死んでも手を
下したのは
さっきの男だ

そもそも
責任を
問われた
ところだ

俺にはもう
失うものなど
ないか
ないじや





お前が
必要だ



いつ...!?



ふやふや!

力抜いて
だろける?
?

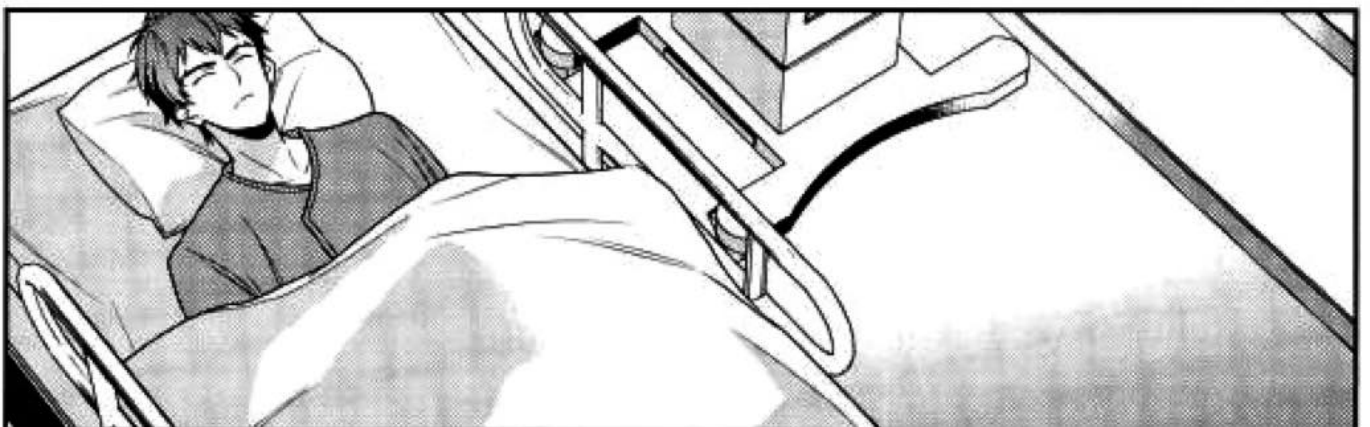


俺を必要と
したのも

それだって
全部



お前は
優秀な
医者だ







…辞める
つもりか



俺が生きている
限り逃がさないと
言っただけだが



悔しい

…あそこで
失敗したら



な辞める



ごめんだ
それは

悔しい

お前より
劣った医者
だと認識される
ことになる



悔し...

それだけ...

今日は一層
キラキラして
美しい

こころ
来い

好きな色

俺の

お前に
触りたい

嫌だ
ガス

グレン

嫌だ

なら





捕まえた

グレン



お前が
必要だ

お前が



ほしい



手術した
なば
んだり

腕だけ

当然だ

いつもより
弱い

腕の力



親父を
救った腕



ずっと迷う
ことなく
認めていた



最初から
ずっと



好き、



好き
だった



拒否権は



あんなとき
焦らないに

サマ

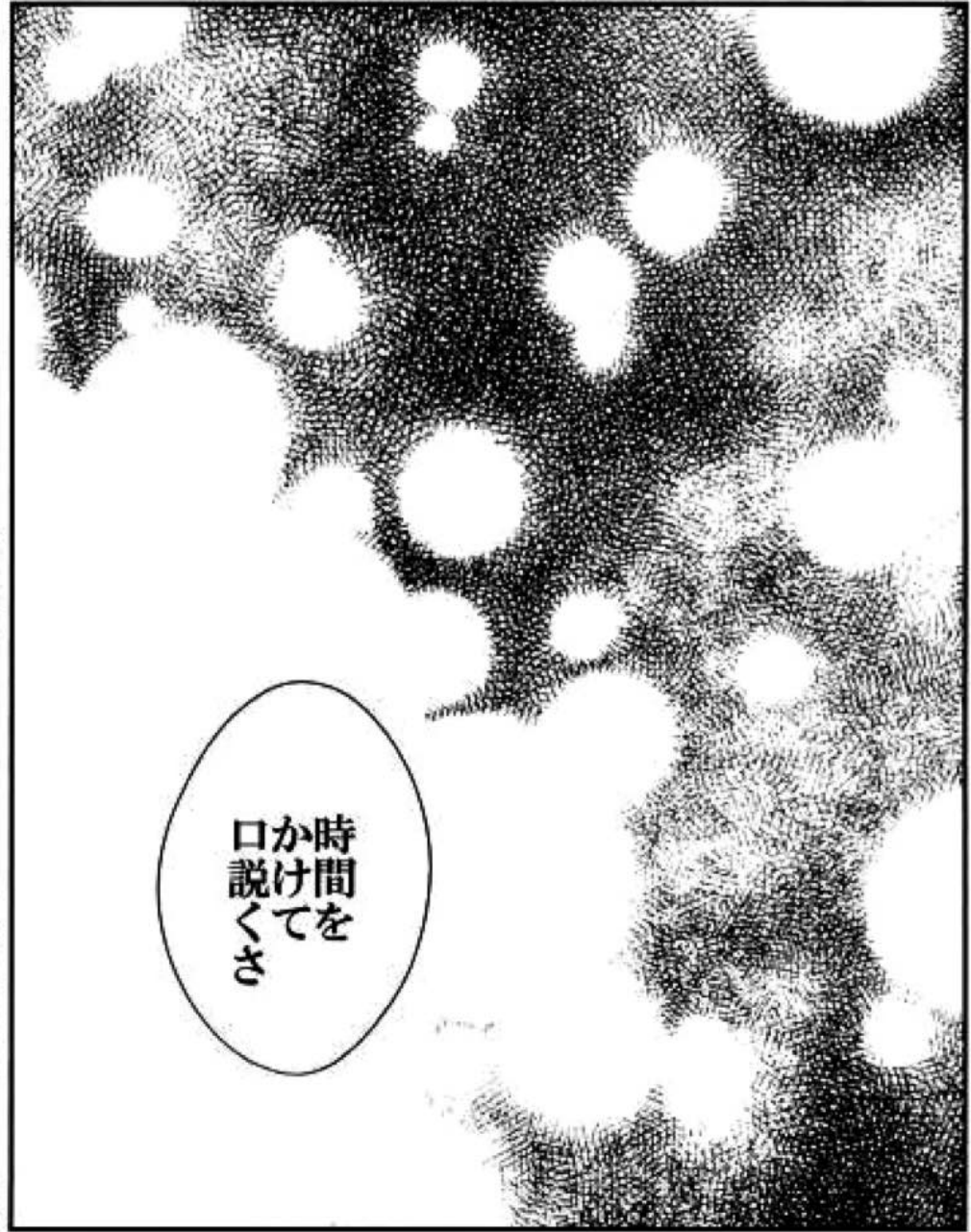


構わ
ないぞ

...



だから
ずっと
傍に
いる



時間を
かけて
かき
口説く



...そう思う
なら長生き
しろよ





